

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397011			
科目名	西洋宗教思想史	年次配当	2年次
担当者	荒井 優	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

西洋において神学、宗教哲学、宗教科学が生まれた経緯を見てゆき、さらに近代以降の宗教思想史を代表的な哲学者・神学者をとおしてたどってゆく。

到達目標

西洋（キリスト教）の「宗教哲学」に属する古典的文献を講読しながら、「宗教とは何か」、「信仰」とはどういう内面性か、また東洋と西洋の神観念の相違などについて理解を深める。

教材

教科書(テキスト)
なし

テキスト以外
参考文献は授業中に指示する。

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

宗教は古く人類の歴史とともに始まる。宗教は現代にも生きており、だれもが「宗教」に関するイメージを持っている。しかし、誤解されている部分も多い。学生諸氏は自分の宗教観を対置させながら聴講してほしい。

授業計画

1	宗教学－（1）神学	16	宗教思想史－（3）キェルケゴールの宗教論
2	〃	17	〃
3	〃	18	〃
4	宗教学－（2）宗教哲学	19	〃
5	〃	20	〃
6	〃	21	宗教思想史－（4）カール・バルトの宗教論
7	宗教学－（3）宗教科学	22	〃
8	〃	23	〃
9	〃	24	〃
10	宗教思想史－（1）カントの宗教論	25	〃
11	〃	26	宗教思想史－（5）ティリッヒの宗教論
12	〃	27	〃
13	宗教思想史－（2）シュライエルマッハーの	28	〃
14	〃 宗教論	29	〃
15	〃	30	〃

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397013			
科目名	ヨーロッパ図書館文化史	年次配当	2年次
担当者	宍道 勉	開講時期	通 年
所 属	図書館	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

図書館は単なる資料収集の場ではない。そのものが文化であり歴史である。ヨーロッパ諸国における図書館の起源・歴史とその時代背景を探ることによって図書館の本質を考える。

到達目標

現在、図書館はとかく情報システムとして捉えられがちだが、本来図書館はその土地の文化そのものであり、歴史と密接に結びついたものである。当然ヨーロッパの図書館の成り立ちを知ることはその国の文化を知ることであり、同様に図書館を知ることはその国の文化や歴史を知ることでもあることを理解する。マンゲルの「図書館」を読みながらヨーロッパの歴史と文化を学ぶとともに、図書館の存在意義について自分の考えを述べることができる。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
アルベルト・マンゲル (著)、野中 邦子 (訳) 「図書館 愛書家の楽園」 (白水社、2008)	DVD等

評価方法

提出物40%、授業態度60%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

テキストから西欧諸国の図書館の歴史と現代の図書館の現況を読み解く。また図書館の登場する映画、文学を読むことで、図書館が持つ意味と同時代の歴史と文化背景を探って行く。

授業計画

1 現代ヨーロッパの図書館 概説	16 仕事場としての書斎2
2 神話としての図書館	17 心のあり方としての図書館
3 秩序としての図書館	18 同2
4 同2	19 孤島の図書館
5 空間としての図書館	20 同2
6 同2	21 生き延びた本たち
7 権力としての図書館	22 同2
8 同2	23 忘れられた本たち
9 影の図書館	24 同2
10 同2	25 空想図書館
11 形態としての図書館	26 同2
12 同2	27 図書館のアイデンティティ
13 偶然の図書館	28 同2
14 同2	29 帰る場所としての図書館
15 仕事場としての書斎	30 まとめ

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397028			
科目名	英語による文化講読B	年次配当	2年次
担当者	荒井 優・大江 節子	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

ヨーロッパ、アジア、日本などの文化理解を深めるために、英語で書かれた文献を講読し、あわせて英語による読解力の増進をはかる。

前期（荒井）は宗教学の立場から欧米の精神文化の基層をなす「聖書（Bible）」を講読する。

後期（大江）は歴史学の立場から、西アジアの文化、あるいはヘレニズム（ギリシャ風）文化に関わる原書を講読する。

到達目標

（荒井）西洋の精神文化について、比較的読みやすい文献を輪読しながら、西洋特有の概念に注目し、文化理解を深める。

（大江）英書に対する親しみや読解力をつけ、英書文献を読みこなせるようになる。併せて、注意深く文献を読む態度を身につけ、文化をより深く理解できるようになる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

適宜指示する

プリント配布。参考文献は適宜紹介する。

評価方法

提出物50%、授業態度50%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

（荒井）講読するなかで相互に活発な議論を行い、学生自身が宗教的・文化的洞察を深めてゆくといった授業形態をとりたい。

（大江）受講者には輪番で講読のチューターを務めてもらい、皆による議論と、教師による歴史的背景の解説を交えて授業を進めていきます。単に翻訳するだけでなく、内容を理解するということを主眼に予習をしてきてください。

授業計画

1	「聖書」の成立と構成	16	オリエンテーション：講義のねらいと授業計画
2	英語訳聖書（旧約聖書）の講読	17	（読本[翻訳のないもの]は、受講者と相談）
3	”	18	”
4	”	19	”
5	”	20	”
6	”	21	”
7	”	22	”
8	”	23	”
9	”	24	”
10	”	25	”
11	”	26	”
12	”	27	”
13	”	28	”
14	”	29	”
15	”	30	まとめ
	(前期担当：荒井 優)		(後期担当：大江 節子)

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397030			
科目名	実践英語表現B	年次配当	2年次
担当者	Ian Michael Hampstead	開講時期	通年
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

This course will provide advanced students with new opportunities to practise and further develop their informal and formal composition skills as well as pronunciation and general speaking skills.

到達目標

- 1) Students can develop their own ideas into a more advanced level of communication.
- 2) Students acquire an advanced level of composition and speaking skill.

教材

教科書(テキスト)

"A Tastes of Japan" Kay Hetherly
ALC Press Publishing

テキスト以外

Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher.

評価方法

Participation 50%, preparation 30%, and attitude 20% will all be evaluated generally. Individually each student's accuracy, comprehension, vocabulary used, pronunciation and fluency will also be evaluated.

学生に対するメッセージ (準備学習等)

Instruction will be given generally as well as on an individual basis depending on what each student requires. I would like the students to try and develop, and express their own ideas along with personal interests, and opinions.

授業計画

1 Introduction / group discussion: National Characteristics	16 Introduction / group discussion: Students choice
2 Reading: words in context	17 Reading: words in context
3 "	18 "
4 Listening: different opinions	19 Listening: different opinions
5 "	20 "
6 Vocabulary building: general	21 Vocabulary building: general
7 "	22 "
8 Grammar understanding	23 Grammar understanding
9 "	24 "
10 Writing: journal	25 Writing
11 "	26 "
12 "	27 Discussion: group and individual
13 Discussion / Review / Homework preparation	28 "
14 "	29 Discussion: Individual choice / to be determined
15 "	30 "

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397016			
科目名	英語教育論	年次配当	2年次
担当者	川口 康子	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

前半は明治から昭和にいたる英語教育の歴史を概観するとともに鳥取県における英語教育の歴史を振り返る。後半では、平成になって進展する小学校での外国語（英語）活動について知識を深め、これからの英語教育はどうあるべきかを考察する。

到達目標

1) 歴史的視点から、日本における英語教育のあり方を把握している。2) 平成23年度より正式に開始される小学校外国語活動はどうあるべきか、目的と方法論を理解できる。3) 言語教育とは何かを理解し、言語技術を身につけている。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
小学校での英語教育は必要か 大津由紀雄編著 慶応義塾大学出版会	郷土の英学先覚者 川口康子 資料 日本英学史 大修館書店、ほか

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

あなたは、何のために英語を学んできたか、考えたことがありますか？ 中学校で始まる授業科目の一つだったから、英語が好きだったから、というだけではなく、英語教育の歴史や今日的課題を学ぶと、あらためて英語を学ぶ本来の目的・目標、学校教育で身につけるべき本当のコミュニケーション力が見えてくることと思います。

授業計画

1	英語教育の変遷	16	これからの英語教育
2	幕末から明治の英学	17	公立小学校における英語活動の意義と目的
3	〃	18	〃
4	大正・昭和初期の英語教育	19	〃
5	〃	20	国際理解と英語活動
6	第2次世界大戦後の英語教育	21	〃
7	〃	22	言語技術教育
8	平成の英語教育	23	〃
9	〃	24	〃
10	鳥取県の英学史	25	小・中・高等学校の連携
11	駐在宣教師による英語教室	26	〃
12	郷土の英学先覚者	27	諸外国での英語教育
13	日本の教育文化	28	〃
14	〃	29	これからの英語教育を考える
15	〃	30	〃

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397018			
科目名	日本の思想	年次配当	2年次
担当者	荒井 優	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

日本人の精神世界あるいは精神文化について、比較的読みやすい論文・書籍を輪読しながら、理解を深めていきたい。とくに、日本の民俗（原始）信仰、風土と宗教の関係などについて議論しながら、授業を進めていく。

到達目標

日本の文化・伝統を風土と宗教の側面からみていく。著名な「日本文化論」をふまえながら、日本の文化理解を深めていく。

教材

教科書(テキスト)
なし

テキスト以外

参考文献は授業中に指示する。

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

宗教を通して、日本の文化的特性とはなにかという問いを忍耐強くもって、授業に臨んでほしい。講義を受けるだけでなく、授業のなかで活発な議論を行うことによって、学生自身が宗教的・文化論的洞察を深めていくといった授業形態をとりたい。

授業計画

1	風土と文化	16	1. 和辻哲郎『風土』（講読書例1）
2	（1）森の文化	17	〃
3	〃	18	〃
4	（2）砂漠の文化	19	〃
5	〃	20	〃
6	（3）草原の文化	21	2. 李御寧『縮み志向の日本人』（講読書例2）
7	〃	22	〃
8	日本の民俗信仰	23	〃
9	（1）霊魂観・神観念	24	〃
10	〃	25	〃
11	（2）御霊信仰	26	3. 久野昭『日本人の精神風土』（講読書例3）
12	〃	27	〃
13	（3）祖霊信仰	28	〃
14	〃	29	〃
15	まとめ	30	〃

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397023			
科目名	修了論文	年次配当	2年次
担当者	専任教員	開講時期	通年
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	4単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

専攻科2年間の勉学成果として、修了論文を作成するための演習を行う。学生自らが研究分野と研究テーマを設定し、関連する分野の教員の指導をうけながら、研究を進めていく。

到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ、資料や情報を収集・分析し、論文にまとめる技法を身につける。
- ・研究成果を第三者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。

教材

教科書(テキスト)
なし

テキスト以外

研究テーマに関連して、指導教員が適宜、資料配布・現地調査・参考文献紹介などを行う。

評価方法

提出物70%、授業態度10%、口頭発表20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

こうした自ら行う研究を通して、自らを研ぎ、物事に対する探究心と誠実な姿勢を身につけてほしい。また、これと並行して、学位授与機構へ提出する「学修成果」も作成し、学士の学位(教養または学芸)の取得をめざしてほしい。

授業計画

1	オリエンテーション	16	(学位授与機構への「学修成果」提出)
2	事前学習、事前調査	17	論文執筆
3	研究論文の作成技法	18	
4	テーマの選定	19	
5	データ(文献・資料)の収集・講読	20	
6	現地調査	21	
7	データの整理(解釈・分析・意見)	22	
8	アウトライン作成(論旨・目次)	23	
9	論文執筆開始	24	
10		25	
11		26	
12		27	論文の仕上げ、提出
13		28	
14		29	
15	中間発表会	30	修了論文発表会

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397009			
科目名	韓国の児童文化	年次配当	2年次
担当者	齊木 恭子	開講時期	前期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	5名

授業概要

日本語版韓国絵本を読み、それらや映像資料を手がかりに、韓国文化を幅広く捉えていく。また、日本の文化との比較やかかわりについて、履修生が調べてきたことを発表する機会を持つ。

到達目標

- ・日本語版韓国絵本を通して、韓国における児童文化の一面を理解する
- ・韓国の伝統文化に対する認識を深める
- ・日本の文化と比較しながら韓国の文化を捉えることにより、異文化理解、相互理解を深める

教材

教科書(テキスト)
なし

テキスト以外
韓国絵本、プリント、視聴覚教材

評価方法

レポート70%、発表30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

子どもの文化である韓国の絵本を教材として、韓国とその文化に近づいていきます。そして、授業で取り上げたトピックを日本の場合と比較してみましょう。それを調べてくるのは、みなさんです。

授業計画

- 1 韓国のイメージは？
- 2 絵本で読む美術文化—『くらやみのくにからきたサブサリ』他
- 3 絵本で読む昔ばなし(トケビ話を中心に)
- 4 // (日本の類話と比較して)
- 5 韓国童話を読む—グオン・ジョンセンの児童文学を中心に
- 6 絵本と映像による韓国民俗ノリ—『サムルノリ』、仮面劇
- 7 映像でみる巫俗
- 8 //
- 9 絵本で読む韓国歳時—『ソリちゃんのチュソク』他
- 10 絵本で読む韓国の人生儀礼
- 11 絵本で読む日本の歳時・人生儀礼(韓国と比較しながら)
- 12 社会における韓国の子ども・日本の子どもを考える
- 13 韓国の伝統遊びを楽しむ—ユンノリ他
- 14 韓国の絵本を楽しむ
- 15 韓国の食文化体験

専攻科 国際文化専攻科目 シラバス

397031			
科目名	翻訳演習	年次配当	2年次
担当者	池谷 千恵	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入 可		受入可能人数	若干名

授業概要

英語の文献や資料を日本語に翻訳し、訳した文献の内容について理解を深める。細部にまでこだわり、丁寧に訳すことを心がけ、英語・日本語それぞれの特徴と魅力に触れる。

到達目標

翻訳の演習を通して英語と日本語それぞれの語彙や表現の特徴を知り、2言語への理解を深め、運用力を高める。また、じっくりと翻訳した文献の内容について、よく味わい理解を深める。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
英字新聞、文学作品を予定

評価方法

授業態度50%、提出物・レポート50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

じっくりこだわって翻訳し、作品自体を楽しむとともに、言語センスに磨きをかけましょう。

授業計画

- 1 英字新聞(該当週の国際情勢に関する記事など)を毎週翻訳する。
- 2 文学作品(受講者と相談して決定する)を選び、翻訳する。
- 3 授業1~15回で何種かの翻訳を行い、翻訳ノートを完成させる。
- 4 上記の内容について発表、ディスカッションを行い、授業をすすめていく。
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15 まとめ